《第三期 臨床仏教師養成プログラム》

臨床仏教 公開講座

講座スケジュール

第1講 10/12（水） 18:30〜20:00

“宗教”と“医療”のはざまで
－ターミナルケア－

内容 死を目前に、不安や恐怖を抱き戸惑う人びと。そして医師として感じた無力感と、僧侶として患者に向き合う決意―。日本医療の先端を見つめながら、終末期における〝いのちのケア〟について考えます。

講師 **田中雅博・田中貞雅**（医療法人普門院診療所・僧医）

第2講 10/26（水） 18:30〜20:00

こころ、社会、仏教
－エンゲイジド・ブッディズム－

内容 貧困、差別、自死、そして度重なる自然災害…社会のなかで苦しむ人びとに対し、こころのあり方やいのちのあり方を説く仏教者の姿とは。精神面から社会に関与していく臨床仏教を説き明かします。

講師 **蓑輪顕量**（東京大学大学院教授）

第3講 11/9（水） 18:30〜20:00

スピリチュアルケア
－魂の声を聴く－

内容 死に直面した患者には大きな不安が押し寄せます。キリスト者として、病院付きのチャプレンとして、その経験をもとに、個々の霊性に即した「スピリチュアルケア・いのちのケア」の重要性を説き明かします。

講師 **窪寺俊之**（聖学院大学大学院客員教授）

第4講 11/30（水） 18:30〜20:00

いのちの看護ケア
－「寄り添う」とは？－

内容 「看護師」として、「患者」としてみつめた臨床の現場。生病老死の現象を目の当たりにするなかで感じたケアのあり方、そして真に「寄り添う」ことの意味とは…。ケーススタディをもとに考察していきます。

講師 **藤澤雅子**（淑徳大学短期大学部教授）

第5講 12/7（水） 18:30〜20:00

子どもたちに輝く瞳を
－国際子ども支援－

内容 南アジアなど世界に目を向けてみれば、児童労働や虐待などにより十分な教育が受けられない子どもたちがいます。パネルシアターを通じたいのちの教育と、ボランティアのあり方について学びます。

講師 **古宇田亮順**（パネルシアター創案者）

第6講 12/21（水） 18:30〜20:00

いのちへの問い
－平和活動・原発問題－

内容 新たな憲法解釈や、安全性が担保されないままの原発再稼働への動きが、暗黙裡に進められています。闇を照らす光を宗教者は示せるのか。いま、宗教・宗派を超えて声を上げる必要があります。

講師 **山崎龍明**（武蔵野大学名誉教授）

第7講 1/11（水） 18:30〜20:00

貧困化する子どもたち
－「子ども食堂」の現在－

内容 6人に1人が貧困状態にある、日本の子どもたち。核家族化、親の経済的困窮…セーフティーネットなき社会のなかで、あたたかな食事と居場所を提供する「こども食堂」の現状と可能性を探ります。

講師 **酒井義一**（存明寺住職・ぞんみょうじこども食堂主宰）

第8講 1/25（水） 18:30〜20:00

痛みに応える
－緩和ケアとチーム医療－

内容 病名を告げられたときから始まる緩和ケア。どのように生き、どのように最期を迎えるのか―。患者と家族の苦痛をともなう旅路に、ときに一緒に涙を流しながらも寄り添うチーム医療の実践とは。

講師 **下山直人**（東京慈恵会医科大学緩和ケア診療部長）

第9講 2/8（水） 18:30〜20:00

仏教社会福祉
－自己利他への眼差し－

内容 困難に直面した際、人はどのようにこころに痛みを感じ、課題に向き合い、自らの生を全うするのでしょうか。セルフヘルプ・グループを事例に、人と人との関係性に基づく慈悲の教えと福祉実践のあり方を見ていきましょう。

講師 **石川到覚**（大正大学名誉教授）

第10講 2/22（水） 18:30〜20:00

臨床仏教師の現代的使命

内容 目まぐるしく変化する人間と社会のあり方。そのなかで生老病死の苦しみに喘ぐ人びと…米国における仏教チャプレンの最新事情を踏まえ、臨床仏教師が現代社会で果たすべき使命を説き明かします。

講師 **ジョナサン・ワッツ／神 仁**（臨床仏教研究所）

私たちが生きる社会
私たちが抱く想い
生・老・病・死の「いま」を知る
「いま」を考える

人びとの〝いのち〟に寄り添うために